

キリスト・イエスの内側の各部分の中に生きることによって

キリストのからだの実際の中に生きる

聖書：エペソ 1:22-23. 3:16-17 前半, 19 後半. 4:16. ペリピ 1:8

I. わたしたちはキリストのからだの実際を持つとしようとするなら、キリストにわたしたちの心の中にご自身のホームを造っていただかなければなりません——エペソ 1:22-23.

3:17 前半. 4:16 :

- A. キリストのからだは建造されるのは、キリストがその霊としてわたしたちの霊の中へと入り、わたしたちの霊から思い、感情、意志の中へとご自身を拡大し、わたしたちの全存在を占有することによります—— 3:16-17 前半. 4:16。
- B. キリストのからだの実際は、内住のキリストに対する内なる経験です——コロサイ 1:27. 2:19. 3:4, 10-11, 15-16. 4:15-16。
- C. わたしたちは命としてのキリストに対する内なる経験によってのみ、キリストのからだの実際を持つことができます—— 1:27. 3:4, 10-11. 2:19。
- D. キリストがわたしたちの心の中にご自身のホームを造るとき、わたしたちは満たされて神の全豊満へと至ります。この豊満は召会、キリストのからだであり、三一の神の団体的な表現です——エペソ 3:17 前半, 19 後半。
- E. からだの生活の実際は、計り知れないキリストがわたしたちの心の中にご自身のホームを造ることの結果です—— 17-18 節. 4:16。
- F. キリストのからだとしての召会の内容は、わたしたちの存在の中へと造り込まれたキリストです——ガラテヤ 1:15-16. 2:20. 4:19. コロサイ 3:4, 10-11。

II. わたしたちはキリストのからだの実際の中に生きようとするなら、キリスト・イエスの内側の各部分の中に生きる必要があります——ペリピ 1:8. エペソ 4:16 :

- A. キリストは人として、人の内側の各部分とそのさまざまな機能を持っていました。キリストの内側の各部分の経験は、彼の思い、感情、意志、魂、心、霊における経験であり、彼の愛、願い、感覚、思想、決定、動機、意図を含んでいました——ルカ 2:49. ヨハネ 2:17. マタイ 26:39. イザヤ 53:12. 42:4. マルコ 2:8。
- B. パウロは絶えずキリストの内側の各部分を経験した人でした——ペリピ 2:5. I コリント 2:16 後半. ローマ 8:6 :
 - 1. パウロはキリストの内側の各部分（彼の情感、柔和なあわれみ、同情）においてさえ、キリストと一でした——ペリピ 1:8。
 - 2. パウロは自分の内側の各部分を保たないで、キリストの内側の各部分を自分のものとししました :
 - a. パウロはキリストの思いだけでなく、彼の内なる存在全体を取りました。
 - b. パウロの内側の存在は、変えられ、再組成され、改造されました。
 - c. パウロの内側の存在は、キリストの内側の各部分をもって再構成されました。
 - 3. キリストの中にあった真実、すなわち誠実、忠信、信頼に値することはまた、パウロの中にもありました—— II コリント 11:10。
 - 4. 聖徒たちに対するパウロの愛は彼の天然の愛ではなく、キリストにある愛、すな

わちキリストの愛でした。こういうわけで、パウロは彼の天然の愛によってではなく、キリストの愛によって聖徒たちを愛しました——I コリント 16:24。

C. キリストを生きることは、キリストの内側の各部分にとどまることを必要とします——ピリピ 1:21 前半, 8 :

1. パウロはキリストの内側の各部分を経験しました。彼はキリストの内側の各部分の中でキリストと一であり、聖徒たちを恋い慕いました——8 節。
2. パウロは天然の内なる存在の中で生活をしませんでした。彼はキリストの内側の各部分の中で生活をしました——コロサイ 3:12。
3. キリストの中にある人になろうとするなら、わたしたちは彼の内側の各部分の中に、彼の柔和で細やかな感覚の中にいなければなりません——ヨハネ 15:4 前半。
4. キリストを生きることは、彼の内側の各部分の中に住むことであり、そこにおいて彼を恵みとして享受することです——ピリピ 1:7, 4:23。

D. ピレモンへの手紙には、キリストの内側の各部分の中に生きるからだの生活の絵があります——ピレモン 7, 12, 20 節。

E. パウロは、キリストの感覚を彼自身の感覚とすることによって、キリストのからだの実際の中に生きました。からだに対するキリストの感覚は、からだに対するパウロの感覚となりました——ピリピ 1:8 :

1. キリストのからだを顧慮することにおいて、パウロはキリスト・イエスの内側の各部分を自分自身の内側の各部分としました——8 節。
2. わたしたちはパウロのように、かしらの感覚を自分の感覚とすべきです。これはからだの生活をするのに、最も必要なことです——コロサイ 3:12。

F. わたしたちが肢体としてあらゆる事においてかしらの感覚を持つなら、わたしたちはからだを考慮し、からだを顧慮するでしょう——I コリント 12:12-27。

Ⅲ. わたしたちがキリスト・イエスの内側の各部分の中に生きれば生きるほど、わたしたちのキリストのからだの感覚はますます大きくなり、わたしたちのキリストのからだに対する感覚はますます強くなります——I コリント 12:26-27. ローマ 12:15 :

A. わたしたちはキリストのからだの肢体として、からだの感覚とからだに対する感覚を持つ必要があります。からだは宇宙的であり、からだの感覚とからだに対する感覚もまた宇宙的です——I コリント 12:26-27. ピリピ 1:8。

B. わたしたちはキリストのからだの実際の中に生きるために、キリストのからだの感覚を必要とします——ローマ 12:4-5, 15。

C. キリストのからだの感覚は、わたしたちの内側にあるキリストの命の感覚です——コロサイ 3:4, 15. ローマ 8:2, 6, 10-11. 12:4-5 :

1. わたしたちがこの感覚を訓練するなら、それによってからだに関する事柄に感覚を持つようになります——15 節。
2. わたしたちがこの感覚を養うなら、それによってからだにおける問題を察知することができるようになります。
3. わたしたちがこの感覚を常に訓練し、またわたしたちが主を愛し、召会に関心を持つなら、この感覚はからだの感覚となります——II コリント 11:28-29。

D. わたしたちがからだの感覚を持つなら、他の人たちが苦しみ、あるいは幸いである

とき、わたしたちは彼らと同じ心境になり、同じ困難や祝福を感じるでしょう—— I コリント 12:26-27。

E. わたしたちはキリストの内側の各部分の中に生きることによって、キリストのからだの感覚を養います——ピリピ 1:8. コロサイ 3:10-12, 15. ピレモン 7, 12, 20 節：

1. わたしたちはキリストのからだの肢体ですから、キリスト・イエスの内側の各部分の中に生きることによってからだの感覚を持つ必要があります、またからだに対する感覚を持つ必要があります—— I コリント 12:26-27。

2. キリスト・イエスの内側の各部分の中に生き、キリスト・イエスの感覚と見方を自分の感覚と見方とすることによって、わたしたちはキリストのからだの実際にある召会生活を実行します——ピリピ 1:8。